

平成 27 年度 松本地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	学習支援・体験教室事業
事業主体 (連絡先)	NPO 法人ワーカーズコープ 松本事業所 (松本市城東 2-6-17 ハイツリラ 101 号)
事業区分	(5) 子育て支援 (1) 県と市町村との協働事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,337,076 円 (うち支援金: 1,069,000 円)

事業内容

1. 学習支援

申込制の学習支援から、地域の誰でもが参加できる学習支援の形態に変化させつつ、さまざまな子どもたちに対応できるよう柔軟にやり方を変えている。決して塾のような形になることなく大人が学習の場において寄り添っているということを大切にしている。誰でもがいつでも受けられる学習支援を目指し、子どもとの関係性の中で生活環境や悩みなどが見えてくれば次につなげる。

子育て講演会は 2 回開催し、地域の方に広く参加を募った。地域で子どもを育てるという視点から保護者・地域の皆さんに発信を続けている。

2. 体験教室

体験を通して、生きる力をつけていかれるよう様々なジャンルの体験教室を展開した。子ども自らが選択して申し込み、最後までやり通すという事も大切にしている点だ。

地域のセミプロ、プロ級の方に教わることでレベルアップが実感でき、自己肯定感につながっていくのを目指す。



【学習支援】



【体験教室】木育

事業効果

- ① 生活困窮者や生きづらさを感じている子たちに支援が届くようにするためにも事業の継続と、対象をより広くしていく必要があった。どの子どもたちも同じように支援が受けられるよう各館で毎日の宿題支援にも力を入れ始めたところ、勉強への意欲が見え始め、自ら宿題を始める子どもが増えてきた。講師は、教え込むのではなく、子どものそばに寄り添って一緒に考えることで学習支援も子どもたちの居場所となりつつある。
- ② 学ぶ意欲が向上し、子どもたちから「こんなことを体験したい」という声が多く挙がるようになってきた。少しでも多くの子どもたちの興味、関心にこたえられるよう選択の幅を増やしている。しっかり教わることで「上達した」という

【目標・ねらい】

- ① 生活困窮者家庭や生きづらさを抱えている子どもたちの体験格差、学力格差を解消する目的から、すべての子どもたちに向けての支援にシフトする。
- ② 地域の人材に外部講師を依頼したことで変化のあった子どもたちがより主体的に力をつけていかれるよう事業の継続・自立に向けて考えていく。
- ③ さまざまな生活困窮者支援活動も含めて、子どもたちと共に地域づくりを考えていく。

感覚や「上手になったね」という大人からの声掛けは、子どもたちの励みとなり継続への力や自己肯定感のアップにつながっている。また、講師へのあいさつやマナーを守ることは、これから社会へ出てからも必ず役に立つはずで、ただ教えてもらうのではなく、自ら選んで学び楽しく続けているながら「生きる力」をつけてきている。

その結果、館やセンターでの生活全般に落ち着きが出てきていることも付け加えておきたい。

- ③ 学習支援、体験教室に多くの方々関わって下さっている。その方との定期的な聞き取りやアンケートなどで課題を解決しながら進めてきた。広がってきたネットワークは分野を超えて、館やセンターの助っ人として繋がり始めた。そこから困窮者支援の子ども食堂、託児ボランティアなどへ活動は広がりを見せている。

※ 自己評価【 A 】

【 理由 】

利用者の意見を取り入れながら、地域に根差した活動を心掛けてきた。その結果見えてきた子ども達の課題をさらに解決すべく、地域へ発信していく形になっている。

その中で繋がってきた地域のネットワークを学習支援、体験教室の将来の自立のために生かして継続事業にするよう努力をしている。
--

今後の取り組み

- 子どもたちがいつでもどこでも学習支援が受けられるよう、活動を全市に広げていく。
- より多くの市民が参加できる子育て講演会にするために、日にち、時間、場所の設定を工夫する。
- 0～18歳まで切れ目のない支援を目指すためにも、つどいの広場との協働、中高生の居場所づくりを進める。
- 体験教室を自立して継続していかれるよう、保護者会、運営委員会などで参加費や内容などについて話し合いを続ける。